

2年A組 音楽科 学習指導案

指導者 三棟 優子

1 時 間（場所） 10：00～10：50（第1音楽室）

2 個人研究テーマ

主体的に思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする学習活動の工夫

3 研究テーマ設定の理由

音楽は、人々に楽しさや感動、安らぎや生きる喜びをもたらし、人生を豊かにすることができる。また、他者に共感する心を通じて、他人を尊重し、異なる考えを持つ人々と共に生きる資質を育むことができる。昔から、人々の生活において音楽は不可欠だった。現在においても、国際社会の平和共存と発展のために良い結果をもたらしていることなどから、音楽が社会に貢献していることは明らかである。

音楽科には、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、感性や知性を働かせて音楽の面白さやよさ、美しさを見だし、音楽を楽しんだり、他者の感情などに共感し、コミュニケーションを図りながら相互理解を深めたりする特徴がある。よりよいものの創造のために、様々な知識を再構成したり、様々な見方をし、違う価値観を受け入れたりすることができるなど、ESDの視点と整合する。

音楽科の学習における、音を媒介として、自己のイメージや感情などの感性と学習によって得られた知識や技能を結びつけて、思いや意図をもって表現する力の育成や、音楽の質を向上させようとする経験の積み重ねが、いずれ生徒が社会に出たときに、よりよい生き方を選択でき、自分の幸せ、社会の幸せづくりのために生きて働くことにつながると考え、本研究テーマを設定した。

4 題材名 歌い継ごう 心に響く日本の歌

教 材 文部省唱歌 「ふるさと」 高野辰之：作詞 岡野貞一：作曲 伊藤康英：編曲
文部省唱歌 「朧月夜」「もみじ」「春の小川」「春がきた」「日のまる」

5 題材の目標

○歌詞の情景や心情を感じ取りながら、表現に対する自分の思いや意図をもち、曲想と歌詞の情景を関わらせた表現を創意工夫することができる。

○歌い継がれてきた日本の歌の特徴と背景となる文化・歴史との関わりを理解する。

○言葉の発音や息の使い方などを工夫しながら、全体の響きや各声部の声などを聴き、友だちと合わせて歌うことができる。

〔本質的な問い〕

なぜ日本の歌は歌い継がれているのか。

〔永続的な理解〕

歌い継がれている日本の歌は、言葉とメロディーが一体化していて、歌詞の言葉や、歌われている具体的な風景を知らなくても、豊かな自然や四季の美しさへのイメージを膨らませることができる。世代を超えて歌い継ぐことは、生活の中の様々な場面で音楽を楽しんだり、共有したりする態度を養うことにもつながる。

6 本題材と研究テーマとの関わり

(1) 生徒について

本学級は、音楽の授業に意欲的に取り組む生徒が多く、5月に実施したアンケートでは「音楽の学習が好きですか」の問いに、91%の生徒が肯定的な回答をしている。また、90%以上の生徒が、音楽を学習することが自分の生活を明るく豊かにし、心を豊かにすることにつながると考えている。それに対し、普段や将来の生活、あるいは社会に出た時に役立つと考えている生徒は60%にとどまっている。

これまで生徒は、共通教材を中心に日本の歌を学習し、歌詞の意味を捉え、歌詞に描かれている情景などを想像しながら歌ってきた。また、日本語の歌詞をいかに明確に伝えるかという視点から、母音や子音の発声の仕方、身体や息の使い方などを学習している。しかし、日本の歌に対して、変化が少ないのであまり好きではない、堅いイメージ、全体的に渋い、歌いにくいなどと思っている生徒もいる。また、混声合唱の経験が少ないため、教えられたことを表現するという受け身の学習になってしまう様子も見られ、音楽の構造や音楽記号などを基に主体的に考えて歌うことには弱さを感じる。こうした生徒の実態を踏まえ、すべての生徒が意見を出し合えるように、個々の考えをしっかりと持たせてからグループ学習を取り入れるようにすることで、生徒同士の学び合いが生かされ、一人でも多くの生徒が学習課題の解決に向け、自ら考え見通しを持つことができるようになる。

(2) 題材について

本題材で取り上げる作品は、文部省唱歌として愛唱されている曲であり、小学校でも共通教材として扱われている。大正初期に作詞・作曲されて以来、今日まで歌い継がれている。中心教材である「ふるさと」は、我が国にとって世代を超えて歌い継がれてほしい曲の一つである。歌詞は文語体にもかかわらず、堅苦しい雰囲気を感じさせず、聴くだけで懐かしさがこみ上げてくるような優しい旋律がこの曲の大きな魅力となっている。本校では、毎年卒業証書授与式前日に、卒業記念音楽会を行っている。そこで、最後のプログラムとして全校生徒、教職員、保護者が一緒に歌っている曲が「ふるさと」である。1年生は斉唱で歌い、2年生は3年生の力を借りて、初めての混声四部合唱に挑戦することになっている。生徒は昨年度の卒業記念音楽会で、先輩が歌う混声四部合唱「ふるさと」を聴き、これまで慣れ親しんできた印象とは違う、雄大で豊かな響きの演奏に感動し、改めて自分たちの「ふるさと」を歌ってみたいという気持ちを持つことができている。歌の特徴と背景となる文化・歴史との関わりを理解させ、長年にわたってその歌が歌われている理由を考えることで、自分たち生活や社会において音楽が果たしている役割を考える学習につなげたい。

(3) 指導について

「ふるさと」の学習では、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現にするために、繰り返し詩を朗読したり、主旋律を斉唱したりすることで、日本語の持つ美しさを味わわせ、言葉と音楽との関係を大切にしながら学習を進めていきたい。音楽を形づくっている要素（旋律、フレーズ、強弱、テクスチャ）を知覚し、音楽の美しさや豊かさを感じ取り、ワークシートに記入した意見を共有しながら歌い、曲を練り上げていく場面を大切にしていきたい。その際、自分の思いや意図、表現方法などが自由に書き込めるような学びの過程を残すことができるワークシートを工夫したい。また、今回はより目標を持って歌唱表現するために斉唱だけでなくアカペラ混声四部合唱に編曲された作品を教材として選択した。合唱練習では、全体の響きを聴きながら、自分の声と友だちの声とを調和させて歌うことの楽しさを味わわせたい。そして、自分のふるさとを離れ巣立っていく時、ふるさとの良さを思い出し、ここで学んだ「ふるさと」を自分たちの歌として生涯歌い継いでほしいと願っている。

7 評価目標と評価方法

評価目標（観点）	評価方法（視点）
①歌詞の内容や曲想及び、曲の背景となる文化や歴史との関わりに関心を持ち、合わせて歌う学習に意欲的に取り組んでいる。	◎パフォーマンス課題 卒業記念音楽会で、豊かな響きのある混声四部合唱「ふるさと」を聴いている人に届けたいと思います。そのために、自分たちの合唱を客観的に聴き、もっと工夫できるところはないか考え、課題を見付け、それらを解決するための方法を考えましょう。また学習の最後には、なぜ日本の歌は歌い継がれているのか、その理由も考えましょう。
②全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う学習に意欲的に取り組んでいる。（音楽への関心・意欲・態度）	
③旋律、フレーズ、強弱、テクスチャなどを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、曲にふさわしい音	

楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (音楽表現の創意工夫)	(評価目標の①②③④⑤) ○観察 (評価目標の①②④) ○ワークシート (評価目標の①②③) ○演奏聴取 (評価目標の④⑤)
④歌詞の内容や曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能(発声、言葉の発音、呼吸法、身体の使い方など)を身に付けて歌っている。 ⑤全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌うために必要な技能を身に付けて歌っている。(音楽表現の技能)	

8 指導計画(全4時間)

学習内容	評価規準(観点)	時間
○昨年度の卒業記念音楽会の動画を視聴する。 ○「ふるさと」の作詞者・作曲者について知る。 ○小学校の共通教材の中から作詞者・作曲者二人が生み出した「ふるさと」以外の唱歌を歌唱する。 ○文部省唱歌としての歴史的背景を理解する。 ○日本語の歌詞を聴いている人により明確に伝えるための言葉の発声の仕方を学ぶ。 ○「ふるさと」の音取りをし、全体で合わせる。	◇歌詞の内容や曲想及び、曲の背景となる文化や歴史との関わりに関心を持ち、合わせて歌う学習に意欲的に取り組んでいる。 (関心・意欲・態度) ◇歌詞の内容や曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能(発声、言葉の発音、呼吸法、身体の使い方など)を身に付けて歌っている。(技能)	1
○それぞれが考える「これが私のふるさと」の写真を紹介する。 ○各グループでどう表現したいのか、思いや意図をもちながら曲想と歌詞の情景を関わらせた表現を創意工夫する。 ○全体で思いや意図を共有しながら、合唱を作り上げる。	◇全体の響きや各声部の声を聴きながら、他者と合わせて歌う学習に主体的に取り組んでいる。 (関心・意欲・態度) ◇旋律、フレーズ、強弱、テクスチャなどを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (創意工夫)	2 本時 (その2)
○録音した自分たちの合唱を聴き、課題を見付け、解決方法を考える。 ○2年A組の「ふるさと」を仕上げる。 ○日本の歌がなぜ歌い継がれているのか、その理由を考える。	◇歌詞の内容や曲想及び、曲の背景となる文化や歴史との関わりに関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して合わせて歌う学習に主体的に取り組んでいる。 (関心・意欲・態度) ◇全体の響きや各声部の声などを聴きながら友だちと合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。(技能)	1

9 本時の指導（3/4時間）

(1) 主 題 歌詞に込められた思いが伝わる表現を工夫しよう。

(2) ねらい

○歌詞の情景や作者の心情を感じ取りながら、曲想と歌詞の情景を関わらせた表現を創意工夫することができる。

○全体の響きや各声部の声などを聴きながら、表現に対する自分の思いや意図をもち、友だちと合わせて歌うことができる。

(3) 展 開

学習活動(形態)	時間	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◇評価(方法)
1 「ふるさと」を合唱する。 (一斉)	5	○今までの学習の成果を確認しながら「ふるさと」を合唱しよう。	○前時の復習が分かりやすいように、板書や掲示物でまとめておく。 ○音程が不安定なパートはピアノで補助する。 ○歌詞を朗読させ、歌詞の内容や言葉の特徴を確認させる。
2 3 番の歌詞に込められた思いを確認する。 (一斉)	3	○3 番の歌詞に込められた思いを発表しよう。 ・夢を実現するために故郷を出て都会に行った主人公が、成功を収めて必ず故郷に戻ってくるという決意の表れ。	
3 学習課題を確認する。(一斉)	2	3 番の歌詞に込められた思いが伝わる表現を工夫しよう。	
4 各グループで工夫点を話し合いながら、練習する。 (グループ)	15	○自分たちのグループがどのように歌えば、理想的な表現に近付くか、意見交換しながら練習しよう。 ・作詞者の強い気持ちを出すために前半のフレーズのつながりを考えたい。 ・「志」は作者の思いがこもっているので言葉をはっきり表現したい。 ・「ふるさと」の歌詞が2回出てくるので、語頭の歌い方に注意するとともに表現の違いを出したい。	○より豊かな表現にするために、ワークシートを基に意見交換しながら拡大楽譜に思いや意図など工夫点を記入させる。 ◇全体の響きや各声部の声などを聴きながら、表現に対する自分の思いや意図をもち、創意工夫して友だちと合わせて歌うことができる。(観察、ワークシート、演奏聴取)
5 各グループの工夫したいところを確認しながら、全体の響きの中で、作り上げていく。 (全体)	20 (5) (15)	○各グループの工夫した歌い方を発表しよう。 ○各グループの合唱を聴いて、学級全体としての表現を工夫しよう。 ・前半は作者の強い思いが現れているので、強く、はっきりと表現したい。 ・最後の「ふるさと」はたっぷりと歌いたいから、テンポを遅くしたらどうだろう。	○自分とは異なる他者の考えも参考にして、自分の価値意識を再確認しながら表現を深めさせる。 ○思いや意図を伝え合う場を取り入れ、学級の表現の工夫点を決め、その表現ができるように指導する。
6 本時の学習を振り返り、「ふるさと」を合唱する。 (一斉)	5	○工夫してきたことを生かして、最後に通し合唱をしよう。	○次時につながるように、本時の学習活動を振り返らせる。
授業研究 の視点		○自分たちの合唱が、自分たちの思いや意図を表現できたものであったかを生徒同士で聴き合い、意見を出し合う活動が、生徒の表現力を高めることにつながったか。 ○生徒が論理的に思考を深めたり、表現を工夫したりするための教師の言葉がけは適切であったか。	